

酪農経営基盤の維持・向上に 雌雄判別精液のご利用を!!

■ 9月1日現在「乳用種雌牛頭数」 全国：1,467千頭 広島：9,860頭

■ 広酪雌雄精液購入費に対する助成単価 8,000円/本(上限)



広酪における生乳受託数量の状況は、本誌巻末の「酪農テレックス」に掲載しておりますが平成二十四年四月から九月迄の生乳受託数量実績は、二万七千四百七十三・六トン(前年同期対比九十六・九%)となりました。

中国生乳販連の生乳受託数量実績は、十四万八千六百四十四・四トン(前年同期対比百一・四%)と、中国五県の中でも生乳生産量は伸び悩んでおります。本誌先月号では、経産牛の一頭当たりの年間平均乳量、年間の死廃頭数、酪農家における空き牛床に関する情報を提供しましたが、今回は、近い将来の生乳生産基盤を担う二十四カ月齢未満の頭数データ(基礎データ…JIMILKのHPから引用)に着目してみました。

このデータを、各自の酪農経営実態に照らす中で、雌雄判別精液の利用に着目戴き、将来の後継雌牛の出生率を高めて戴くことを願いたいものです。

■ 二十四カ月齢未満の乳用雌牛頭数の現状

広島県全体の乳用雌牛総頭数九千八百六十頭で、この内二十四ヶ月齢未満牛の占める割合は、二十六・三%の二千六百頭です。

対して、中国地区の乳用雌牛総頭数は五万五千五百六頭に占める割合は、二十七・三%の一万四千八十三頭となっております。

乳用種雌牛頭数の内二十四ヶ月齢未満頭数の割合
(全国と中国の比較)

全 国	32.6%
北海道	38.7%
都府県	24.2%
中 国	27.3%
広島県	26.3%

【乳用雌牛の年別区分別頭数状況】

(単位：頭)

年齢範囲	全国計	構成割合	北海道	構成割合	都府県	構成割合	中国計	構成割合
0歳以上1歳未満	237,933	16.2%	161,232	19.2%	76,701	12.2%	7,180	13.9%
1歳以上2歳未満	240,247	16.4%	163,558	19.5%	76,689	12.2%	6,904	13.4%
2歳以上3歳未満	240,963	16.4%	128,219	15.3%	112,744	18.0%	9,214	17.9%
3歳以上4歳未満	211,967	14.4%	109,098	13.0%	102,869	16.4%	8,545	16.6%
4歳以上5歳未満	164,611	11.2%	86,998	10.3%	77,613	12.4%	6,336	12.3%
5歳以上6歳未満	121,344	8.3%	62,820	7.5%	58,524	9.3%	4,587	8.9%
6歳以上7歳未満	96,873	6.6%	50,444	6.0%	46,429	7.4%	3,620	7.0%
7歳以上8歳未満	61,898	4.2%	32,075	3.8%	29,823	4.8%	2,195	4.3%
8歳以上9歳未満	39,647	2.7%	19,995	2.4%	19,652	3.1%	1,363	2.6%
9歳以上10歳未満	25,266	1.7%	12,785	1.5%	12,481	2.0%	819	1.6%
10歳以上	26,463	1.8%	13,551	1.6%	12,912	2.1%	743	1.4%
合 計	1,467,212	100.0%	840,775	100.0%	626,437	100.0%	51,506	100.0%

■24カ月齢未満の乳用雌牛頭数の現状
(中国地方各県との比較)

年齢範囲	広島県	構成割合	鳥取県	構成割合	島根県	構成割合	岡山県	構成割合	山口県	構成割合
0歳以上1歳未満	1,276	12.9%	1,645	16.5%	1,343	13.0%	2,433	13.8%	482	13.0%
1歳以上2歳未満	1,324	13.4%	1,569	15.8%	1,253	12.1%	2,269	12.9%	488	13.1%
2歳以上3歳未満	1,620	16.4%	1,821	18.3%	2,104	20.3%	3,068	17.4%	600	16.1%
3歳以上4歳未満	1,679	17.0%	1,637	16.5%	1,770	17.1%	2,938	16.7%	520	14.0%
4歳以上5歳未満	1,280	13.0%	1,179	11.9%	1,227	11.9%	2,166	12.3%	484	13.0%
5歳以上6歳未満	1,017	10.3%	789	7.9%	802	7.8%	1,601	9.1%	378	10.2%
6歳以上7歳未満	705	7.2%	567	5.7%	814	7.9%	1,257	7.1%	277	7.4%
7歳以上8歳未満	401	4.1%	372	3.7%	468	4.5%	771	4.4%	183	4.9%
8歳以上9歳未満	267	2.7%	184	1.9%	264	2.6%	519	2.9%	129	3.5%
9歳以上10歳未満	157	1.6%	109	1.1%	167	1.6%	304	1.7%	82	2.2%
10歳以上	134	1.4%	69	0.7%	131	1.3%	311	1.8%	98	2.6%
合計	9,860	100.0%	9,941	100.0%	10,343	100.0%	17,637	100.0%	3,721	100.0%

■平成24年9月末迄の
雌雄判別精液利用奨励助成事業実績

地域	戸数	雌雄判別精液
備北	11戸	116本
南部	1戸	6本
西部	5戸	70本
東部	12戸	113本
合計	29戸	305本

■二十四カ月齢未満の乳用雌牛頭数の割合向上に雌雄判別精液を活用下さい

広酪では、「雌雄判別精液利用奨励助成事業」に取り組んでおります。これは、近い将来の生乳生産基盤を担う、乳用雌牛確保のための支援策として、雌雄判別精液購入経費に対する助成措置（広酪独自事業と中国生乳販連の事業をセット）を講ずるものであります。助成金単価は一本当たり八千円ですが、雌雄判別精液の単価が同額を上回る場合は、この額を上限とし、逆に下回る場合は、雌雄判別精液購入経費の相当額（本数の上限十五本）を助成します。

平成二十四年9月末迄の雌雄判別精液利用奨励助成事業の実績は次のとおりです。

■まとめ

先月号に続き、生乳生産基盤に関する要素となる後継牛の確保に注目してみました。

組合員の数人からは「自らによる乳用後継雌牛の確保は、将来の酪農経営を支える重要な要素であり、一日五百円の貯金と考えるべきだ」との指摘意見が届いております。

ごもつともな意見と受け止める所です。県外導入に依存しない経営基盤の確立は、市場競争に左右されない酪農経営の安定化につながるものと考えます。

広酪においては、まずは中国地区に並ぶ割合以上の乳用雌牛の後継育成牛を確保して行くことが、酪農家における将来に及ぶ酪農経営の礎を築くとともに県全体の生乳生産基盤の維持若しくは向上に結びつくものと考えますが如何でしょうか。

生乳生産基盤の打開策として何が必要なのか等、ご意見やご提案がありましたら広酪までお寄せ下さい。

○今月の表紙

▼今月の表紙写真は、三次市高谷山の頂きから三次市街にカメラを構え、「霧の海」をショットした。

▼広酪本所は広島県三次市にあり、同市の観光名所は、鶴飼い船、霧の海などがある。

▼今、朝の冷え込む時に発生する「霧の海」の眺望は絶景である。

▼三次市は盆地で、江の川本流の可愛川、及びその支流、馬洗川、西城川、神野瀬川が交わっている。

▼霧は、水蒸気を含んだ大気中の湿度が何らかの理由で下がり露点温度に達した際に、含まれていた水蒸気が小さな水粒となって空中に浮かぶことで発生するのだそう。

▼霧の晴れない状況に、出張で訪れた人、遠方から転勤で初めて三次市内に住居を構えた人からは、正午まで「気分が憂鬱になる」、「今日は雨なの?」、「洗濯物が乾かない」等の言葉を聞くことがある。

▼三次市の秋は、昼までベールに包まれることが多い。

▼ノーベル医学生理学賞受賞が決まった山中伸弥・京都大教授による人工多能性幹細胞(iPS細胞)の研究では、未知のベールを一枚一枚剥がすことから成果が生まれたとか?

▼三次市の観光名所である「霧の海」を山の頂から眺める機会を是非ともつくってみられては如何でしょうか。

▼新たな発想が生まれるかも知れませんが...

▼「霧」の文字が入る熟語の中に「雲散霧消(うさんむしょう)」がある。この熟語「雲の中に溜まっていたわだかまりや悩みが消えて、さっぱりした気持ちになる」という意味があるそう。